

【大人調律】「気持ちいいこと、教えてあげる」天才ピアニストの甘いレッスン
～ピアノの上達を信じ、教授のねっとりとした調教に堕ちていく音大生～

サンプル（一部抜粋）

「君はね、ピアノの演奏技術的には問題ないと思っているんだよ。
ミスタッチも少ないし...さすがこの大学一位といったところだろう。
でもね、君の演奏には何かが足りないんだ。
ドキドキするような高揚感や、苦しくなるような音色...
そういうものが僕には一切伝わってこない。色気のない音楽...といった所かな。」

「もうこの話は何度もしているね？
前のレッスンから一週間。
この一週間でどう変わるか、僕は楽しみにしていたんだよ。
でも...何も変わっていない。君はこの一週間、一体何をしていたのかな。」

（じゅる...ぐちゅっとクリトリスを口で愛撫しながら、膣に指を入れる音）

「...ちょっと痛いね。でもそれこそが大事な感覚なんだよ。
痛みを感じたその先に...君が求めるものがあるんだから。
少し我慢していなさい。」

（中でぐちゅぐちゅと指を動かしながら、クンニする音）

「...何か来そう...？
（くすっと笑う）いいよ。そのまま飲み込まれてしまいなさい。」

（激しいぐちゅ音・容赦なくクリトリスを吸うじゅる音・椅子がギシギシと鳴る音）

「...気持ちいいねえ。次はもっと深い所で狂おうか。」

「このままクリトリスでもう一度、上手にイけるかな？」

（くちゅくちゅと激しくクリトリスを擦る音・優しいぐちゅ音・きゅっと踏ん張るような靴の音）

「...クリイキ、上手だね。中も随分柔らかくなってきた。」

（腰をがっちりと両手で押さえつける音）

「じゃあ、最後の仕上げといこうか。」

（激しく後ろから突き上げる肉体衝突音・ぐちゅ音）

「...はは。すごい声出すね。
今、すごく色っぽいよ。
ね？ちゃんとレッスンの成果が出始めただろう？」